第1回第6次太子町総合計画審議会での主な意見と対応方針

1. 審議会での意見

項目	主な意見	対応方針
1. 第6次太子町総合計画策定方針について		
着眼点や策定方針	計画策定にあたっては、財政の視点を入れてはどうか。	ご意見を踏まえ、着眼点や策定方針等を修正しました。
	全国では地域住民との協働という方向で取り組みが進んでおり、この視点も含めてはどうか。	
	SDGsの観点は自治体の計画において必ず必要である。	
文言の調整	社会・経済情勢のところで、「金剛バスの廃止」と「自然災害の頻発化・激甚化」が並記しており、地域のものと全国のことが混在している。	
	着眼点1で「人口が推計を大きく下回った」、「自然増減、社会増減ともにマイナスであった」と書かれているが、一方で「社会増減は回復傾向」と書かれており、矛盾した言い回しに見える。	
	「必要と考えます」と「必要です」という表現が混在しており、強弱の差と捉えられる。	
計画期間	計画期間10年の途中で、計画を振り返る年度を設定してはどうか。	「基本構想」は大きな社会構造の転換等が発生しない限り、めざす町の方向性に大きな変化はなく、8年とした場合も計画内容に差異は生じることも少ないと考えられ、策定コスト面等を考慮し10年とします。 「基本計画」については、首長任期と合わず場合、見直しを2年間前倒し、または、2年間先送りとする必要があること、また、マニフェストを計画に反映することを前提とした場合、就任後短期間で策定する必要があり、細やかな評価や調査が実施できないなどの課題もあることから、10年間の『基本構想』における『基本計画』の策定期間は、前期・後期各5年の期間が妥当であると考えます。 具体的な取り組みは、計画期間3年の「実施計画」を社会情勢の変化も見据えながら、毎年の事業評価をもとにローリング方式により見直し、必要に応じて事業内容の変更や新たな施策の着手等を検討していくこととします。
	計画期間が適切かどうか、町で議論してほしい。	
	10年の期間でフルモデルチェンジをしたら、2～3年毎にマイナーチェンジをするくらいのスピード感を持った計画にして欲しい。	
ワークショップ	大字地区ごとにワークショップを行った方がよい。	ご意見を参考として、ワークショップの構成を検討します。
現計画の評価	現行総合計画で、成果が上がらなかった部分や上がらなかった部分について、次回以降教えて欲しい。	現計画を評価いただく審議の際に、詳細に説明したいと考えます。
	総合戦略について、現在の計画が十分に機能していなかった理由を説明してほしい。	

情報提供	関連計画について、別途、提供いただきたい。	HP の URL を提示し、確認いただくこととしました。
	地域未来投資促進法による事業内容について詳しい説明が欲しい。	
	バスの配置と再変の現状等について情報提供いただきたい。	
2. 住民アンケート調査		
加筆、訂正	「11 身近な道路の安全や快適さの向上」という項目に対して、満足度を問う設問があるが、「向上」に対し満足度を問う設問はわかりにくい。	ご意見を踏まえ、調査票を修正しました。
	設問の中で、「スポーツ施設や公園が整備されている」となっているところがあるが、別のところでは「スポーツ施設や公園、文化施設…」となっている。	
	太子町の住み続けたい理由の項目に、「歴史・文化に魅力を感じるから」は必要である。	
	満足度を問う設問で、満足が 1、不満が 5 となっているが、逆ではないか。	
	施策を問う設問で、「人と人との繋がりを住民の方々はどう評価しているか」という項目を入れてはどうか。	
都市計画マスタープランの設問	アンケート内容に、都市計画マスタープラン策定のための設問が入っていることが釈然としない。	担当課と調整し、調査票のタイトルからは「都市計画マスタープラン」の文言は省き、計画策定の際には、調査結果は参考にさせていただきますこととします。
回答方法	二次元コードを使って、スマートフォンで回答する方法を併用してはどうか。	二次元コードを使った回答方法を併用することとしました。
3. その他		
計画策定の観点	太子町には 1400 年の歴史があり、まちづくりのヒントがここにあると思う。いかに観光戦略に活かしていくかといったことを考えていけば、自ずと目指すべき方向が決まってくる。	今後の計画策定の参考にさせていただきます。
	地域資源は何かということをもまず掘り起こすことがスタート地点になる。	
	土地利用の観点から、安定財源を確保していく計画にしないといけない。	
	IC の横に駅があるという交通インフラは太子町のストロングポイントである。	
	これまでの第 5 次、第 4 次総合計画では、計画の中に土地利用のことを具体的に書きすぎているということがある。	
	「住宅都市であるべきなのか」、「農村であるべきなのか」、「産業を重視する都市であるべきなのか」、そうした大きな方向性を決めていきたい。	
	総合計画は、あらゆる分野を網羅しないとけないが、一方でメリハリも必要である。	

2. 審議会後の意見

項目	主な意見	対応方針
策定方針の設定手順	策定方針を定めるにあたり、住民の声を聴くべきである。やり直しを求めたい。	策定方針は総合計画を策定するための指針であり、総合計画策定の諮問を受けた審議会で、基本的に議論するものと考えています。 「住民の声を聴くこと」は、あくまで策定方針の一つであり、それを踏まえて、まずは住民アンケートや住民ワークショップから計画策定を始めることとしています。 なお、今後、住民等より関連する意見をいただければ、適宜、反映していく予定です。
策定方針	策定方針の「住民の声を聴く」ことについては、方針1に持ってくるべきでないか。	方針1に「住民の声を聴く」を掲げます。
	策定方針7の「住民等との協働」の「等」とは何か。	「住民等」の解説を加えました。
	「厳しい財政事情」とあるが、国・府がしっかり自治体に対して財政負担すれば、自治体も住民も厳しさを感じる必要はない。「新たな行政サービス提供手法の推進が必要」だと思ったことがないし、私は議会で求めたこともない。	国や府の制度改革は、総計で話し合うべき内容ではないと考えます。 町に対する多様化、高度化するニーズへは町だけでは対応できないことであり、人材も財源も限りがあることを考えると、その対策を考える必要があると考えます。
文章の加筆・修正	「誰もが幸せに暮らしていけるまち」という表現は「フワッ」とした表現に思う。	表現を改めます。
	2025年限りの「万博」をことさらのように書く必要があるのか。	
太子町の問題点	「観光事業」が太子町のまちづくりのどのよう に貢献したのかが、見えてこない。見えてこ ない「観光」を「歴史・文化」に位置付けてい いのかも問われなければならない。	観光については、審議会でも議論いただ ければと考えます。
情報提供	下位に位置付けられた「計画」も資料として 提出してもらいたい。	HPのURLを提示し、確認いただくこととし ました。
アンケート配布数	アンケートの配布数は、2000人では少ない。 広報に二次元コードをつけて「総合計 画のアンケートにお答えください」と案内す ればいいのでは。	統計的に考えると、太子町の場合、約400 人のサンプル数があれば、95%の信頼度 を有します。仮に回収率が30%であれば、 600サンプルは確保することができますの で配布数2000人は十分な数字となります。 広報に二次元コードを付けるのは、時期的 に難しいですが、太子町のHPに掲載する こととしました。